

新たな学年のスタートのために

3年生にとっては、大庄北中学校の生活も残すところあと10日(+20日)です。1・2年生は、今の学年で生活するのがあと24日(+6日)です。人が成長するには、最後をどのように生活するかが人としての成長に大きく関わってきます。自分の行動ひとつで今後の生き方が変わります。

「 最後だから 」
最後だからと きばるものがある
最後だからと 気を抜くものがある
初めだけでもと がんばるものもあり
初めぐらいはと のんびりするものもある
初めも大切だが
最後は更に大切だ
最後だから きばってほしい
最後だから がんばってほしい
すばらしい初めを迎えるために

「イチロー選手に見る努力の証し」

イチロー選手は、みなさんが生まれる前からプロ野球界で大活躍をしています。「イチローは天才だから。特別な才能があったから。」と決めてしまう人も多いようですが、そんなことはありません。イチローの高校生活(寮生活)の様子が次のように記されています。

練習が終わって風呂に入って夕食が終わる。そこから十一時の消灯時間までが唯一の自由時間だったが、この時間にほとんどの一年生と二年生は先輩のユニフォームや下着を洗濯することになる。だけど、イチローは違った。その時間にもテニスコートで素振りをしたり、陸上ト

ラックに出てランニングをして自分を鍛えた。けっきょく、みんなが寝ている間に洗濯をするために、午前三時起きを自分で決める。三時から五時まで洗濯をして、五時から朝食の準備をするために米をとぎ、みそ汁をつくった。丸二年間、この日課を続けることになる。

当時、寮には幽霊が出ると噂されましたが、それは夜中にこっそり練習するイチロー選手の姿でした。「自分ではそれがふつうだったんです。練習できないよりは精神的にずっと楽でしたから」という言葉からは練習が体に染みついていた様子が分かります。

しかし、イチローがずば抜けた才能の持ち主なら、こんなに努力しなくても一流選手になれたはずです。イチロー選手が天才なのだとしたら、それは人並みはずれた「努力の天才」ということになるでしょう。イチロー選手は高校時代、確かに甲子園には行きました。でも大活躍したわけではありません。高2の夏は4打数1安打、高3の春は5打数無安打、いずれも1回戦敗退です。高3の夏は県の決勝戦で7対0。イチロー自身も無安打で甲子園出場の最後のチャンスを逃しています。高校卒業後はドラフト4位でオリックスに入団、その年の30番目から40番目の選手ということです。イチロー選手が実際に1軍レギュラーで活躍するのは3年目。

それでも1年目から活躍するほどの目立った選手ではなかったのです。プロ野球に入る時もアメリカに行く時も「おまえにはできない。やめたほうがいい」と言われました。そんなイチロー選手がメジャーリーグを代表する選手になれたのは、しっかりとした目標を持ち、そのために今やるべきことをやり通してきたからです。まさに「1パーセントの才能と、99パーセントの汗」によってイチロー選手は生まれたのです。

参考文献 児玉光雄「イチロー思考」他

「3月の行事予定」

11日(水)	第53回卒業式	12日(木)	公立高校入学テスト
17日(火)・18日(水)	個人懇談		
19日(木)	公立高校入試発表	25日(火)	修了式

